

⑤【単元目標】 場面の様子について，登場人物の行動や会話を中心に想像を広げながら読み，音読劇をすることができる。

⑥【単元の言語活動】 **登場人物の行動や会話を基に想像を広げ，声の出し方を工夫したり，動作を加えたりする音読劇で場面の様子を伝える。**

（相手：1年生 目的：場面の様子を伝える 方法：音読劇で伝える 場面：発表と交流 評価：人物の様子や気持ちを想像し音読劇ができたか

④【教材の特徴】

- ・会話文が多く，会話の際の様子を考えることで，二人の心情と心の通い合いを読み取り，簡単な動作を付けた音読劇に取り組みやすい。

③【既習事項】

- ・『ふきのとう』では言葉の響きやまとまりに気をつけながら音読することを経験している。
- ・『スイミー』では，登場人物のしたこと，言ったことを基に自分の感想を書くことを経験している。

②【児童の実態】

- 読書が好きな児童が多く，楽しみながら文章を読むことができる。
- △長い文章の理解が苦手であったり，みんなの前で話すことに抵抗を感じたりする児童がいる。

①【重点とする指導事項】

- ・場面の様子に着目して，登場人物の行動を具体的に想像する。
- C 読むこと (エ)

⑦【言語活動成立の要件】

- ア 人物の様子や気持ちを想像する会話の際の2人の位置，距離，仕草，顔の向きを考えることができる。
- イ 声の出し方（声の大きさなど）と動きに変化を付けるなど音読を工夫することができる。
- ウ よりよい音読劇になるように，仲間に考えを話したり意見を参考にして練習したりすることができる。

⑧【単元の流れ】

<p>【第1次】1時間</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習の見通しをもつ。 ・学習の計画を立てる ・初発の感想を書く。 	<p>【第2次】9時間</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教材全体を読み，どこで，誰が言ったのか・したのか，どうなったのかを確認する。 ・場面ごとに，場面の様子を想像し，音読劇を考える。 ・他のチームの児童に音読を聞いてもらい，評価を聞いてよりよい音読につなげる。 ・音読劇の練習をする。 ・音読劇をする 	<p>【第3次】2時間</p> <ul style="list-style-type: none"> ・登場人物に言ってあげたいことを手紙にして書く。 	<p>【交流活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・場面の様子を伝えるために，よりよい声の大きさ，読む速さ，動作を考え，発表する。
---	--	--	--

並行読書・アーノルド・ノーベルの他の話を読み，登場人物の心の交流を楽しむ。

⑨【単位時間の工夫】

<p>【第1次】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・既習事項を思い出し，音読劇を行なう意欲を高める。 ・感想を掲示し見えるようにしておく。 	<p>【第2次】〈本時〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・展開 登場人物の様子を会話文から全員で考える。チームごとに音読劇を考えて，他のチームに評価を聞く。 ・まとめ 仲間コメントから場面の様子が伝わったかを振り返る。 	<p>【第3次】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・登場人物に向けて言ってあげたいことを手紙にして書く。 	<p>【交流活動の工夫】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・深めの発問後，自分の考えを持ってから，ペア交流を行い，考えを深める。
--	---	--	--

⑩【支える学習環境】

- ・発表の際の話形の掲示
- ・音読の仕方の工夫の例示
- ・並行読書コーナーの設置
- ・ペア交流の話形の掲示

【研究とのかかわり】

(1) 願いを明確にした単元指導計の工夫

- ・単元の出口で1年生に向けて音読劇を行うことを伝え，単元の課題を「場面の様子が1年生によく伝わるように，音読劇をしよう」と設定し学習への意欲を高める。

(2) 考えを深めるための指導の工夫

- ・深めの発問後，時間をとって考えを形成し，ペア交流を行うことでまくんの落ち込みとかえるくんの何とかしてまくんを喜ばせたいという様子を具体的に想像できるようにする。

(3) 自己の高まりを自覚できるまとめ方の工夫

- ・場面の様子を音読劇で伝えられたら，矢印を↑にすると評価規準を伝えることで自己の高まりを自覚させる。

◆本時のねらい

がまくんとかえるくんの会話文に着目して読む活動を通して、思わず自分が手紙を出したことを打ち明けてしまうかえるくと、手紙の内容やかえるくんの自分を思う気持ちに喜ぶがまくんの様子や気持ちを音読劇で表現することができる。

◆本時の展開（7／12）

	学習活動と児童の姿	指導上の留意点（☆人権教育の視点）
つかむ ／ 考える	<p>1 本時の課題を確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>課題 がまくんがかえるくんからお手紙を出したと聞いた場面の音読劇をしよう。</p> </div> <p>2 がまくんが、かえるくんから手紙を出したと聞いた場面の様子を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・かえるくんは、お手紙がなかなか来なくて焦っている。 →かたつむりくんまだかな。 →はやく、がまくんを喜ばせたいな。 →必ずお手紙がくるからがまくんもう少し待ってくれよ。 →かたつむりくん、頼むから早く来てくれ。 ・がまくんは、お手紙が来ることをあきらめてしまっている。 →1回も来たことがないから来るわけじゃないか →ぼくにお手紙をくれる人なんていないわけがない。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>どうしてかえるくんは、「お手紙を出した」と言ってしまったのだろう。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・本時は P.14,L1 から最後まで音読劇をすることを伝える。 ・本文と挿絵のあるワークシートを活用し、様子を書き込んでいく。 ・深めの発問をすることで、かえるくんががまくんのことを心から心から喜ばせたい、本当の親友だからと伝えたい気持ちが強いことに気付けるようにする。 ・てがみをもらったがまくんを再び問うことで、手紙をもらったうれしさと、友達がうることに気付いたうれしさに気付けるようにする。 ☆かえるくんの何とかしてがまくんを喜ばせたい、力になりたいという気持ちが分かる。（認識力） ・ペア交流のときにつなげて話すことができるように話形を掲示する。「～の意見を聞いて同じだな（似ている、なるほど）と思いました。」 ・話型を掲示し、相互に音読劇の評価をする。「音読劇を見て、～の様子がよく伝わりました。」
	<p>3 深めの発問を聞いて、かえるくんとがまくんの様子や気持ちを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・がまくんを元気づけようと必死だったから ・がまくんにお手紙を出す人（友達）がいることを手紙で伝えたかったけれど、がまくんの悲しそうな様子を見て我慢できずに言ってしまった。 ・がまくんはお手紙をもらえんことを知って喜んでいる。 →初めてのお手紙うれしいな。 →かえるくん、ありがとう。 →僕も君の友達でうれしいよ。 <p>4 深めの発問の考えをペア、全体で交流をする。</p> <p>5 3人1チームで音読練習をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・必死なかえるくんだからがまくんの目を見て、大きな声で読んだほうが良いと思う。 ・がまくんは最初お手紙が来ることをあきらめているから、元気がない声で、下を向いて読むと良いと思う。 ・がまくんはお手紙が来ることを聞いてうれしいから、元気よく笑顔で読むと良いと思う。 <p>6 まとめの音読劇をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・かえるくんのがまくんを喜ばせようと一生懸命な様子が伝わりました。 ・かえるくんのやさしい気持ちが伝わりました。 ・がまくんのお手紙がくるのをあきらめている様子がよく伝わりました。 ・がまくんがお手紙がかえるくんの話を聞いてほんとうにうれしそうな様子が伝わってきました。 ・なかなかかたつむりくんがやってこないことや、二人の幸せそうな様子が伝わってきました。 	
深める ／ まとめる	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>評価規準 【読む能力】 かえるくんのがまくんをなんとかして元気づけようとする必死さと、がまくんがかえるくんにお手紙をもらってとても幸せな気持ちになっている様子を音読劇で表現することができる。</p> </div>	